

山梨ライトハウス

第74号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>



山梨県盲人福祉センター(点字図書館)
電話/055-222-3502・223-1113(貸出専用)

青い鳥ホーム 電話/055-252-8994

青い鳥成人寮 電話/055-224-5060

青い鳥支援センター 電話/055-221-1260

青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631

青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス



山梨ライトハウスの理念は
「^{あす}視覚障害者の未来を照らす
^{みちしるべ}光の道標となること」です。

CONTENTS

バリアフリーらいふ ……1	青い鳥奉仕団設立50周年式典…6
白い杖愛護運動月間……2	ボランティア紹介 ……7
福祉祭・今、福祉は… ……3	お知らせ ……8
ライトハウスニュース ……4・5	

「今でしょよ！」 (第2弾)

バリアフリーらいふ

一年前、私は「今年はずっとツーリングへ行きますよ」と宣言しました。

今年こそはというところで、土日の週末はブドウづくりで専念し、たまにある平日の公休日や年次休暇を使ってツーリングの計画を立てました。

ぶどうの袋かけも終わり、一段落した七月、普段からソロで楽しんでいる友人が北信州にツーリングに行くというので、一緒に連れて行ってもらうことになりました。しかし、二日前に友人に急用ができてしまい中止になりました。私だけでも行こうかとも思いましたが、自信もなく、また次の機会にすることにしました。

二度目の計画は収穫前の八月の下旬、この日はたまたま二人の休日になったことで、再度、同じコースにチャレンジすることになりました。今度こそはと心ははやったのですが、今回は私に急用がはいつたため、またもや中止となりました。その後は、ブドウの出荷や家庭の行事等のため、時機を逸してしまい今日に至るまで出かけておりません。

ですが、実は、最初の計画を立てた後、練習もかねて「奥多摩湖」に行ってきました。ツーリングで友人に迷惑をかけないよう、また、バイクにも慣

れておかないと、と思いつつ、不安ながら一人で行ってきました。片道八十キロ位だったと思いますが、何とか一人で行くことができ、北信州へのツーリングの期待が膨らんでいました。

私の高校時代は、奥多摩湖は小河内ダムと呼ばれていました。私が在学していた日川高校の強歩大会は小河内ダムの先の氷川中学校(現奥多摩中学校)までの約八十キロを、「日川から氷川まで」のキャッチフレーズのもと夜を徹して生徒全員が走りました。一年生の時は頑張って走りましたので百二十番位だったと思います。二年生では途中で大雨のため中止、三年生では最上級生として、脱落者が出ないよう、後ろの方でみんなを励ましなが走り切りました。

この強歩大会で一番記憶に残っているのは、一年生の時のことです。懐中電灯をつけながら必死に走りましたが、途中「おいらん淵」のあたりで電池が切れてしまいました。あたりは真っ暗で道もよくわかりませんでした。心細くて困っていると、後ろから先輩のジャンボ鶴田さんのグループが来ましたので、そのあとについて一緒に走らせてもらいました。ジャンボ鶴田さんは、同じ地域(牧丘町)の先輩で、高校総体の相撲の練習をしたとき、鶴田さんの「足」と相撲を取った記憶があります。とても大きな人で、

青い鳥老人ホーム

施設長 神津孝正

まわしの位置が私の顔のあたりにありました。高校三年間で通学用の自転車三台乗り潰したと聞いています。

話を戻しますが、そんなことを思い出しながら、練習のつもりで行ったツーリングが、唯一のツーリングになってしまいました。大学時代の教授から「何とかしたいという気持ちを強く持ち続けられれば、必ず何とかなる。」と教え込まれましたが、今回もまた「どうしても行きたい。」という気持ちが小さかったのかもしれませんが。これからは、計画は立てても表には出さず、強くなる内に念じながら、その時が来たら「今でしょよ！」で行きたいと思っています。



その時(?)を待つ2台!

第62回白い杖愛護運動月間 平成28年11月1日～11月30日

特集

安全な移動環境の充実と強化を

第62回白い杖愛護運動（山梨県・山梨県教育委員会・山梨ライトハウス主催）を11月1日の「白い杖・盲導犬キャンペーン」を皮切りに、11月6日には、山梨県立盲学校体育館を会場に「白い杖福祉の集い」を開催しました。式典では、奉仕者知事表彰、白い杖愛護作文・生活体験文受賞者の表彰を行い、最優秀作文の朗読が披露されました。

白い杖愛護作文・生活体験文合わせて357編の応募がありました。

たくさんのご応募ありがとうございました。



白い杖愛護作文受賞者



受賞を待つ白い杖愛護作文受賞者



白い杖愛護作文受賞者



知事表彰受賞者

白い杖愛護作文
受賞者代表
あいさつ



知事表彰受賞者
代表あいさつ



生活体験文
(児童の部)
最優秀作文朗読



白い杖愛護作文受賞者

生活体験文
(一般の部)
最優秀作文朗読



白い杖・盲導犬キャンペーン（甲府駅南口）



白い杖・盲導犬キャンペーン（甲府駅北口）



白い杖・盲導犬キャンペーン（主催者あいさつ）

福祉祭

山梨ライトハウスでは十二月六日(日)に晴れ渡る秋空の下、『福祉祭』が開催されました。今年の『福祉祭』は来賓・一般・利用者・職員含め三百名程度の参加がありました。今年は開会式に先立ち、甲府西幼稚園年長児による和太鼓の演奏から始まり、可愛い園児の演奏に心が和みました。その後の開会式は花形理事長の挨拶に始まり、多くの来賓にもご参加いただきました。ふれあい広場では各施設が一生懸命練習した出し物の発表会が行われました。青い鳥成人寮は『健康リズムダンス』青い鳥ホームと青い鳥老人ホームは『合唱』。みなさん練習の成果が十分に発揮され、大変素晴らしい発表になりました。



かわいらしい発表

模擬店ではあんころ餅やほうとう、おでんや皮付きフライドポテト等が販売され、ほうとうは長い行列ができるほどの人気でした。

ふれあい広場の点字教室や盲人囲碁教室も賑わっていました。また、初の試みとなった青い鳥ホームの『マッサージ奉仕体験』が大変好評で、長蛇の列が出来ていました。

最後は待ちに待ったお楽しみ抽選会です。次々と抽選番号が読み上げられ、みなさんの笑顔が弾けます。各種商品券や食事券付き入浴券やお菓子セットなど豪華賞品がたくさんありました。残念ながら当選しなかった方は来年期待ですね。

今年も多くの関係者にご参加、ご協力いただき『福祉祭』を盛大に終えることができました。各関係機関のみなさま、また来年も宜しくお願いたします。



ほうとう美味しいね



おそろいの蝶ネクタイで...

「全国盲老人福祉施設連絡協議会」

平成二十八年度テーマ研修会

青い鳥老人ホーム 副主任支援員 山口 倫子

事務員 笹本 稔

十一月十五日〜十六日に大阪で行われた、全盲老連の研修会に参加しました。テーマは「リスクマネジメントを考える」でした。

施設が直面している様々なリスクについて、職種別の垣根を越えた議論をする事ができて有意義な研修でした。安全に暮らせる環境(生活)を保障する上で、介護事故等への対策は勿論のこと、自然災害から防犯対策まで優先度はともかく様々なリスクへの対策を考えておく必要があります。

防犯用品の整備等、様々な方法を考えているようです。しかし、どれも防犯段階であり、万が一不審者に侵入された場合の対応には、各施設苦慮している様子が伺えました。重苦しい討議になることもありましたが、最終的に参加者の意見がまとまったのは「地域社会との繋がりと、開かれた施設になる事こそが災害対策のみならず、防犯の上でも一番重要である」という事でした。

中でも、今回の熊本地震で被災した福祉施設の話は非常に深刻なものでした。「これで十分だと思っていた非常用のマニュアルが全く通用せず、職員の安否確認すら困難だった。情報も物資も全てが不足する中での、最初の数日の混乱は、説明しきれないものではない」という話からは、自然の凄まじさを改めて感じました。そして、「このような状況の中、支援物資を運んできてくれた隣県の福祉施設があった。どんな時でもこういう繋がりは本当に強いものだ」と実感する事ができた」という言葉からは、最終的には人と人、施設と施設の繋がりが一番大切なのだという事も感じる事ができました。

また、防犯対策での意見交換も活発に行われ、どの施設も警察との連携や各種



参加者集合写真

ライトハウスニュース

NEWS NEWS NEWS

● 盲人福祉センター 移動ライトハウス

十一月二十日に山梨県視覚障がい者福祉協会山梨支部のご協力を頂き山梨市民会館四階会議室にて移動ライトハウスを開催しました。



多くの方々に日常生活用具を体験していただきました。

午前は、給付

対象の日常生活用具や白杖と対象外の便利グッズなどの紹介と体験会。午後は、音声ガイド付きDVDについての説明と紹介をしました。

日頃、興味のあるものを見てみたいと思ってもライトハウスまでは、なかなか行かれない方のためにも目の前で品物を手にして使い心地を確認でき喜んでいただけました。また、DVDも視覚に障がいのあるなしにかかわらず一緒に映画を楽しめることを知っていたら、後日、音声ガイド付きのDVDの映画にどんなものが販売されているかのリストを紹介したり、映像ではなく音声のみだが、映画にガイドの付いた「シネマデザイナー」のリストを紹介するなどの



ライト付きのルーペで細かい文字も見やすくなりました。

情報提供ができました。これからも欲しい情報が多岐の方たちに提供できたらと考えています。

● 青い鳥老人ホーム 年末衣料買い物

青い鳥老人ホームでは、毎年恒例となつている年末衣料



どう?似合うかしら?

買い物にアピタ石和店へ外出しました。十月二十四日・二十九日・十二月六日の三日間に分かれて自分の好きな物を購入して頂きました。秋の気配がしてくると、老人ホームの談話室では「今年も年末の買い物はあるんだよね?」「今年は何にしようかな!」「何日に行くのかな?」と買い物の話題で盛り上がりつづけます。施設よりプレゼントという事で、購入した衣類は年忘れ会で施設長サンタからもらう事ができます。毎年、お正月には新しい衣類に身を包まれ、新年を気持ち良く迎えることができます。皆さん喜ばれています。



色違いで買いました。着るのが楽しみ!

フリースを着て冬を乗り越えます!

● 青い鳥成人寮 ヴァンくんがやって来た

一月十三日ヴァンフォーレ甲府のマスコット、ヴァンくんを利用者さんの交流会がありました。外部の行事でヴァンくんに触れ合う機会があつても、成人寮に来て頂いたのは初めてだったので、皆とても楽しみにしていました。



作業でつくった陶芸品をプレゼント

ヴァンくんがスクールのコーチと一緒に登場すると「ヴァンくん」と声を掛けハイタッチをしたり、抱き付いたり「サインして」と紙を出す利用者さんもいました。ヴァンくん体操では音楽に合わせてリズムカルに身体をほぐし、コーチとのボール遊びは、一列に並んでボールを回し、最後の男性の利用者さんは、蹴つてボールが置いてある場所に戻し、皆から「上手」と拍手が送られ照れている場面もありました。皆の輪の中に入る事が苦手な利用者さんも、最後まで一緒に楽しむことが出来ました。いつもは声を掛けてもなかなか参加が難しいのに...さすがヴァンくん(笑)。ボール遊びやヴァンくんに触れ合い、皆笑顔で楽しい時間を過ごす事が出来ました。今年は良い年となる様な予感がします。

また、スタジアムに応援に行きますね。



ボール遊び



今シーズンも応援しています!

● 青い鳥ホーム ●

青い鳥ホームこの1年

青い鳥ホームの忘年会が十二月五日に地元のおいしさで評判の華宴さんで、日頃からお世話になっている技術指導の先生やボランティアの皆さんをご招待し、感謝の気持ちを伝え、親睦を深めました。

ホームの目標は、「心を込めてマッサージ治療をします」「何事にも積極的に挑戦しよう」ということです。

今年、ホームの皆さんにとつては、大きなうれしい変化の二年でした。六月にはライトハウスに近い下飯田の地に移し、通勤型の就労形態をとっています。以前とは異なり職住分離のメリハリのある生活が送られています。

九月は、敬老の日に合わせて朝日地区のご高齢の方々に無料マッサージ券を配布し多くの方々の方々の治療にあたりました。また、十一月にはライトハウスの福祉祭において、参加していただいた方々へマッサージを体験していただくなど大変好評でした。マッサージを受けた方々は「こんなにいいもんだとは知らなかった」「肩こりがすっきりした」「首や腕が軽くなりました」等うれしい評価をしていただきました。

青い鳥ホームは開設から六十一年が経過します。増改築された治療室は五十年の経過とともに、床や壁も色あせ、清潔感が失われつつありました。この度模様替えを行いました。明るく清潔感あふれるマッサージ治療室となりました。ぜひ一度青い鳥ホームへおいでください。「心を込めて治療させていただきます」



山梨ライトハウス福祉祭りでマッサージ奉仕をするホームの皆さん

青い鳥ホーム(マッサージ室)

受付時間 午前9時から午後3時
(電話で予約ができます)

なお、治療時間についてはご相談下さい。基本1時間30分です。

住所 甲府市塩部一丁目6-20
☎(055)252-8994



新装された青い鳥ホームの治療室

● 青い鳥ケアホーム ●
大掃除&忘年会

青い鳥ケアホームでは、十二月二十三日に第一、第二合同の大掃除と忘年会を行ないました。朝から各部屋やリビング、キッチンや浴室などを、利用者と職員が力を合わせて念入りに掃除しました。

大掃除が終わると、近くのカラオケ店に移動してお待ちかねの忘年会の始まりです。テーブルには手巻き寿司、ピザ、オードブルなどが盛りだくさん。乾杯の後、何から食べようか、それとも先に歌おうかと、忙しくも楽しい宴となりました。「この声は誰?」「一緒にデュエットしよう」などと、話も弾みました。最後には、みんなで三本締めをして会を締めました。

そのあと女性の皆さんは、かねてより希望のあった温泉館に入り、石和へ移動。冬の露天風呂は、長湯してものぼせることなく最高でした。大掃除で住まいをキレイに、カラオケでリフレッシュして心をキレイに、温泉で身体もキレイに...と、良い年を迎える準備は、ばっちりです。



2017年もみんなで元気に!



楽しい宴会

● 青い鳥支援センター ●
楽しかったクリスマス会

支援センターにとつて二年の締めくくりは、毎年盛大に開催するクリスマス会です。

今年は、皆さんからリクエストのあった「カラオケ大会をしよう!」の声に、会場も食事もパワーアップ!利用者さん二十七名スタッフ・ボランティア十三名の合計四十名と大人数でしたが、賑やかな雰囲気の中、美味い食事と大好きな歌に囲まれ楽しいクリスマス会となりました。職員の出し物や、パン食い競争風船運びゲームなど盛りだくさんな内容に加え、最新のカラオケで気持ちよさそうに歌う皆さんの笑顔を見ていると「二年無事に過ぎたな」「楽しい一年だったな」とスタッフ一同感慨深く感じました。最後はスマップの「世界に一つだけの花」の大合唱。この歌はスマップが解散してしまっただけで毎年歌おうね!

今年も、支援センターは楽しい企画が盛りだくさん!お楽しみに♡



カラオケタイム



大勢のご参加ありがとうございました



楽しいパーティー

設立50周年を迎えた山梨青い鳥奉仕団 記念式典を挙

平成28年11月18日、常磐ホテルにおいて山梨青い鳥奉仕団設立50周年の式典が行なわれました。

山梨県知事 後藤斎様をはじめ、甲府市長 樋口雄一様、山梨県議会代表 遠藤浩様、甲府市議会副議長 岡政吉様、山梨県ボランティア協会会長 大澤英二様、県障害福祉課長 山本盛次様を来賓としてお迎えし、心地よい秋空のもと、参会者120名の盛会でした。

奉仕団は昭和41年11月に点訳奉仕者だけで創設しました。現在は点訳部・音訳部・写本部で構成され、団員も約270名で良質の点訳図書・音訳図書・拡大図書の制作を第一の目標として活動しています。明日からは51周年に向けての努力です。270名でがんばります。



和やかに祝賀会が行なわれました



山視協の皆さんもお祝いにかけつけてくれました



堀口山視協会会長(左)と大澤ボランティア協会会長(右)



すばらしい庭園での記念撮影

ボランティア紹介

視覚障がい者のガイドヘルパー「わの会」

視覚障がい者ガイドヘルパーわの会

代表 加藤 浩

この度、山梨ライトハウスの会誌に「わの会」の活動の様子を載せて頂ける機会を頂き有難うございます。四十年近く障がい者と共に活動させて頂きました。

「わの会」の活動の様子について改めてご理解頂きたく活動の様子を記載させて頂きます。

昭和五十一年にガイドヘルパー制度がスタートし、山梨ライトハウスでの講習会で修了生が生まれガイドヘルパー活動が始まりました。昭和六十二年に修了生を中心にガイドヘルパー「わの会」が設立され、障がい者の自立支援を目指し、戸外活動や催し物の支援などの活動が行われてきました。



わの会研修 杉浦邸宅

障害者自立支援法に伴う同行援護が関与しない部分(団体行動の支援 催事などの行事、施設利用者の活動支援)に絞って活動をするにしました。

個人的に依頼が来た場合は、個人の判断でガイドすることになりました。事業所のガイドを利用した場合は無料ですが「わの会」は交通費として一日千円を頂いております。

事業所とのトラブルを避ける為です。同行支援を受けられない方には、無料でガイドしております。

個人的なつながりが、ガイドをする機会の減少とともに薄れてくるため、旅行・パークビューやグラウンドゴルフ等で機会を持つようになってきました。

また行政によるガイド講習会はなくなり、有料講習会で講習を受け、修了者でなければ有料ガイドとして事業所では働けなくなりました。ガイド講習会を受けた方は、有料ガイドとして働くことを希望し、ボランティア活動に参加する人が有りません。ガイドの手引きを手軽に学べる機会もなく、正しく安全にガイドが出来る人が減っています。このままでは街角での移動支援ボランティアはいなくなると思われれます。

「わの会」は新人もなく現会員は高齢化が進み、このままでは消滅するのみの状態です。

「わの会」がなくなったら現在行っている障がい者団体の活動支援は弱体化して活動に支障が出る可能性があります。あります。「わの会」としては、対策として出前講座「ガイドの手引き講習会」を行い幅広く伝えていく活動に取り組んでいます。ガイドの手引きを学んだ人が増えてくれば、街角での移動支援も増えて、障がい者とともに生きる社会の実現に近づくものと思っております。

読者の中で興味のお持ちの方は、是非出前講座をご依頼ください。手弁当で出向きます。今後ともよろしく願いいたします。紙面を借りて広報と募集をさせて頂きました。



甲府鍼灸マッサージ師会と、わの会親睦会

視覚障害者支援のグループ

だるまの会

だるまの会事務局 三浦 廉男

会の名称は人生七転八起、つまりき転んだら挫けず又立ち上がることを信条として、だるまの会としました。

昭和三十八年、数人の仲間と酒を飲みながら、俺たちは若くて元気だがやがては年をとって老人となるが、今日こうして酒を飲んでいられるのも五体満足であるから健康に感謝して、何か世の中の為に役に立つことをしようと、視覚障害者との親睦と交流を計ることを運動方針としてガイドヘルパーやカーボランティア活動などを続けております。

会員数は十七名で山視協の皆さんから健康の有り難さを学びながら感謝しつつ奉仕活動を続けて現在に至っております。会へのご入会ご連絡郵便物などは事務局宛にお願い致します。



三浦 廉男

〒403-0014

山梨県富士吉田市竜ヶ丘3-9-21

自宅0555-22-4728 携帯090-4941-3430

池田老人クラブから 花の苗のご寄贈

青い鳥成人寮の地元自治会である池田自治会老人クラブ様から、地域の美化活動の一環として花の苗のおすそ分けがありました。

成人寮の前庭は、地域交流のお祭りなどで地域の方々にも開放しております。利用者の皆さんと花壇に植え、一足早い春を感じることができました。ありがとうございました。



中山施設長に 厚生労働大臣表彰

青い鳥成人寮中山比佐子施設長が11月厚生労働大臣表彰を受けました。

36年間にわたり盲重複障害者施設で生活支援業務に携わり、社会福祉への貢献が認められました。



中山施設長(左から2人目)

あいおいニッセイ 同和損保(株)から 車椅子のご寄贈

平成29年1月13日、あいおいニッセイ同和損保株式会社・山梨支店様より山梨ライトハウスに車椅子のご寄贈がありました。屋田雅昭支店長様(左)より花形理事長様に目録が贈られました。理事長のお礼のごあいさつの中で「青い鳥老人ホームは介護度が高く車椅子は欠かせず誠にありがたい」と感謝の気持ちをお伝えしました。



山梨放送から 点字カレンダーのご寄贈

平成28年11月24日、山梨放送から点字カレンダー300部の贈呈式がライトハウスで行われました。県内の視覚に障害のある方々へお送りするもので、有泉ラジオ本部長より花形理事長に手渡されました。

今年の写真は各地のお花の名勝地で、1月は静岡県の水仙が咲く爪木崎です。どれも素晴らしいお花の香りまで漂ってきそうな写真です。



ホームページが リニューアルしました。

より見やすくなりましたので、ぜひご覧ください。
<http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>

川柳

(十二月のライトハウス川柳会から)

浅川和多留 選

日本の四季逃げてゆきどうなるの

井口 貞子

ボート漕いだ思い出が浮く富士も晴れ

加藤 隆

人の世に感謝重ねて年を越す

河口 竹子

干し柿は木枯し欲しくベソをかき

中村 洋子

惜敗の悔しさ月へ吐き捨てる

細川 一

来る年も平和にのぼる八十路坂

花形 幹雄

高齢者車の事故はあと絶たず

高坂 康平

重ね着をしても懐寒いまま

今村 晴美

過ぎ去りし思い出恋し万華鏡

桑原 梅次

鯛大根やっとなづく母の味

埜村 和美

寒くなりウイルスだけが元気づく

標 照二